

7/21 現代墨絵作家 安保 真 さん
作品を母校 千歳北陽高校に寄贈



現代墨絵作家の安保 真さん（写真中央）が、母校である千歳北陽高校を訪問し、作品を寄贈しました。安保さんは、新しい墨絵の形である「しみ画」という独自の技法を編み出し、海外の国際芸術祭にも多くの作品を出展。数々の賞を受賞するなど高い評価を受けています。昭和 56 年に同校を卒業した安保さんは、在学時はバレーボールに打ち込むスポーツ少年だったといい、寄贈式では後輩たちに向けて、「いつか今日を振り返ったとき、それまでの過程が自分にとって納得できる歴史になるよう歩んでほしい」とメッセージを送りました。寄贈作品は、市の鳥であるヤマセミが大きく羽を広げる様子を描いたもので、安保さんは「高校生は、大人になる一歩手前。これからの不安もあると思うけれど、足踏みせず羽ばたいてほしい」と、作品に込めた思いを話していました。

7/16 グループワークで仲間づくり
福祉のしごと合同入職式



おむね 3 年以内に市内で介護サービスや障害福祉サービスの仕事に就いたスタッフを対象に、市と NPO 法人ちとせの介護医療連携の会は「福祉のしごと合同入職式」を開催。外国人 4 人を含む 33 人のスタッフに参加しました。4～5 人のグループで行ったワークショップ「ケア・カフェ」では、「事業所・地域でとりくんでみたいこと」をテーマに意見を出し合い、仕事のことや地域のことへの思いを共有し、交流を深めました。参加者のアリシア ナオミ ヴァレンシーさんは、日本のアニメに興味があり人と話すことが好きだったことから、日本で高齢福祉の仕事に就くことを決意。昨年 11 月にインドネシアから来日しました。式典後、アリシアさんは「コミュニケーションで困ることもまだあるけれど、もっと日本語を学び利用者の気持ちを考えられるように、今後も頑張りたい」と話しました。

7/6 鈴木知事がまちライブラリー@ちとせを訪問
「なおみちカフェ」開催



鈴木 直道 北海道知事が地域の創意工夫ある取り組みを直接見聞する「なおみちカフェ」が、市内で開催されました。今回、鈴木知事が訪れたのは、本を介して人々が出会い交流するコミュニティ型図書館「まちライブラリー@ちとせ」。(一社)まちライブラリー代表理事の磯井 純充さんの案内で館内を視察したのち、横田市長や磯井さんらと懇談を行いました。懇談を終えて鈴木知事は、「まちライブラリーは、形が決まっていなからこそ、関わる人たちが増え、よりよい方向に発展する可能性を感じた。地域の書店や図書館をどうするか、それぞれの居場所をどうするかは大きな社会的課題だが、まちライブラリーがそれらの解決策の一つになるのでは」と話しました。

7/7 向陽台地域振興会
向陽台桜まつりの売上金を寄附



向陽台桜まつりを主催する向陽台地域振興会が、お祭りの売上金の一部を市に寄附。横田市長が感謝状を贈呈しました。向陽台桜まつりは、桜の開花の時期に合わせて毎年行われるイベントで、今年は 4 月 29 日に開催。同団体の樋渡 正光会長が「おそろく過去最高の人数」と話すとおり、多くの来場者でにぎわいました。当初は向陽台地域振興会の 1 店舗のみからスタートしたお祭りでしたが、回を重ねるごとに規模が大きくなり、今回は 30 ほどの事業者が出店。樋渡会長は、「準備に苦労することもあるが、それ以上に市民の方々に喜んでいただけるうれしさが大きい」と話しました。寄附をいただいた売上金は、市の子育て支援に関する事業に活用予定です。

7/6 千歳市空港開港 100 年をルタオが祝福！
市内限定「COOORN」を発売



小樽洋菓子舗ルタオ（榎ケイシイシイ）が千歳市空港開港 100 年のプロモーション支援として、市内限定の新商品「COOORN（コーーーン）」を発売しました。同商品は、もちっとした特製生地の中から、甘みたっぷりのコーンが溢れ出すこだわりの一品。開発者の「北海道の旅の始まりは、この商品から」という思いが込められています。同社代表取締役社長の上村 成門さんは「千歳と小樽に縁がある会社。千歳の皆さまに喜んでもらえるよう、ともに千歳市空港開港 100 年を盛り上げたい」と話します。さらにプロバスケットボール B リーグのレバンガ北海道とも連携し、抽選でホームゲーム試合観戦チケットが当たるキャンペーンも行われます。



【キャンペーン参加方法】
《COOORN》購入後、配付されるカードの QR コードから応募。
※ 8 月末までにドレモルタオでご購入いただいた方が対象です。

人々のうごき

《総人口》
97,141 人（－ 26）
男性 49,505 人（－ 11）
女性 47,636 人（－ 15）
《世帯》53,504 世帯（＋ 46）

（ ）内は、前月との比較です。

8・1
現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月 10 日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎ (24) 0104 FAX (22) 8851

手づくりの着陸場から新千歳空港へ 開港 100 年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語

Vol. 40 嵐の中の船出

空港運営の民間委託

新千歳空港では開港以来、滑走路を国が、ターミナルビルを民間が運営してきました。平成後期になると、両者の運営を民間に委託し、一体経営を行う空港経営改革が、国によって推進されることとなりました。特に北海道では、新千歳空港への一極集中を是正し、道内全域の観光振興や地域活性化を図るべく、道内 13 空港のうち 7 空港の運営を一括して委託するバンドリング方式が国内で初めて採用されました。

令和 2 年 6 月 1 日、北海道エアポート株式会社（HAP）が、新千歳空港の滑走路などの運営事業をほかの道内 6 空港に先駆けて開始。1 月からターミナルビル運営と合わせた上下一体運営が本格的に始まりました。

これにより世界中の航空ネットワークが深刻な打撃を受け、新千歳空港の国際線は 3 月 25 日の便を最後にゼロの状態が続き、国内線も減便や運休が相次いだことから、令和 2 年の旅客数は対前年比 62% 減の約 930 万人となりました。

旅客数が激減：
ところが、HAP は運営開始当初から、過去に類を見ない問題に直面します。また記憶に新しい、新型コロナウイルス感染症の流行です。

新千歳空港国際線ターミナルビルの様子
令和 2 年 4 月